

## AI・半導体「強気」7万円は通過点 中東緊張緩和に日の丸半導体「三位一体」復活

米・イランが戦闘終結への「覚書」で合意し地政学リスク後退とホルムズ海峡開放に伴う米NY原油先物（WTI）の急落によりインフレ昂進リスクが後退し世界的な金利安定が期待される。とりわけ日本株は「記憶」「視覚」「基盤」三位一体の日の丸半導体の本格復活劇と相まってAI（人工知能）・半導体「強気相場」に日経平均7万円は通過点となりそうだ。

### ホルムズ開放に原油下落インフレ鎮静期待

「世界の船よ、エンジンを始動せよ。石油を流せ ("Ships of the World, start your engines. Let the oil flow!")」ー。トランプ大統領は14日午後（日本時間15日朝）、イランとの戦闘終結に向けた協議で「合意が成立した」と発表しこう訴えた。

トランプ氏はSNSで、戦略的石油埋蔵量が急速に枯渇し失われた湾岸生産を補う物理的な供給不足に世界に危険な「エネルギーの崖」が迫っていただけに合意の重要性を強調するとともに、「この大きな取引は地域全体に平和と安全をもたらす。多くの大統領がイランとの和平を試みてきたが、私以前は全て失敗してきた。地域の指導者たちは、初めて真の平和を実現できる大統領を見つけた。金曜日の協定締結に伴い海峡が開放される (This Great Deal will bring Peace and Security to the whole Region. Many presidents have tried to make Peace with Iran, and all have failed before me. The Leaders of the Region have, for the first time, found a President who can help them achieve real Peace. With the opening of the Strait upon the signing of the Deal on Friday)」と自画自賛した。

イランも最高安全保障委員会が覚書の文言を最終決定し、イランメディアはレバノンを含む全ての前線での戦闘終結が即時かつ恒久的に終了しイランに対する海上封鎖が解除されると伝え、19日にスイスで正式に署名すると明らかにした。

直近まで米イランは14項目による覚書の草案を作成してきたが、現時点で全容を明らかにしていない。イランメディアは、ガリババディ外務次官の話として「全ての覚書の全文は正式に署名した後に公表される」と伝えた。

トランプ氏はSNSで「ホルムズ海峡の通航料なしの開放と、米海軍による封鎖の即時解除を承認する」と投稿、覚書に署名した後にホルムズ海峡を開くとの認識を示した。

ガリババディ氏によると、19日の覚書に調印式を開き、米イランの代表団が交渉の進め方を決めるという。60日間の交渉期間を設けた上でイランへの経済制裁の解除、核問題などを議論する。交渉を始めるには、米国側が戦闘終結や海上封鎖解除などの義務を果たすことが前提になるとしている。

米国・イスラエルとイランの軍事衝突は2月末に始まった。米国はイランの核兵器保有の阻止を掲げ、空爆でイランの当時の最高指導者アリ・ハメネイ師を殺害した。イランはホルムズ海峡を実効支配し、石油輸送の大動脈である同海峡の物流が滞った。

トランプ氏は4月上旬に「一つの文明が丸ごと滅びるだろう」とSNSに投稿し、脅迫めいた言葉でイランを何度も挑発し、イランも米イスラエル攻撃で多くの死傷者が出て、国内経済が打撃を受けた。

厭戦ムードが高まった4月7日に停戦で合意し、恒久的な戦闘の終結に向けた協議への調整を進めていたが、核開発を巡る米イランの立場の隔たりが埋まらず調整は難航を極め、ホルムズ封鎖が長引き、原油高を通じたインフレで实体经济への悪影響が広がっていた。だが、漸く米国とイスラエルが2月28日にイランを攻撃してから3カ月、世界経済を揺らしてきた双方対立がひとまず節目を迎え、恒久的な戦闘終結に向けた協議に入る。

エネルギー輸送要衝のホルムズ海峡開放によりNY原油先物が下落し米国の過度なインフレ懸念が和らぎ、日本時間15日午前の時間外取引で米金利先物から織り込む米政策金利予測「Fedウォッチ」2026年中1回超の利上げ確率が49%前後へと前週末（59%程度）から低下した。

一方、輸入原油の95%に依存する日本だけにホルムズ海峡の開放は朗報でありインフレ鎮静化期待と共にリスク許容度を一段と高めた海外投機筋による日経平均先物への投機的な買いが全体相場を支え、15日前場の日経平均株価は大幅3日続伸し前週末比3573円高の6万9593円と6月3日の最高値（6万8402円）を凌駕、心理的節目7万円に迫った。ある米系投資家は「インフレ懸念の後退により国内長期金利の上昇が一服し日経平均7万円は通過点に過ぎない」と過熱調整を経ながらも日本株6月相場「強気」継続が見込まれる。

#### 【日経平均の節目】

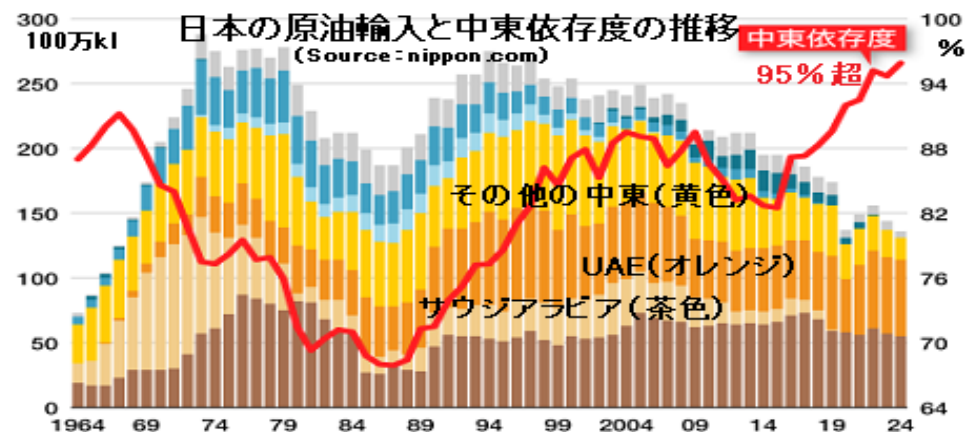
- ・6万9154円 6月15日の高値（9：35）
- ・6万6009円 日足「一目均衡表」転換線
- ・6万4771円 5日移動平均
- ・6万4487円 日足「一目均衡表」基準線
- ・6万4194円 25日移動平均
- ・6万0069円 13週移動平均
- ・5万8875円 75日移動平均
- ・5万6955円 26週移動平均
- ・5万2899円 200日移動平均
- ・5万1063円 米イラン開戦後の安値（3月31日）

## 2026年“日の丸半導体”「三位一体」の復活

ある政府関係筋によれば、「2026年は日の丸半導体にとって正に復活の狼煙を上げた年となる。その鍵を握るのは、『記憶』、『視覚』、『基盤』であり、「記憶」の主演がキオクシアホールディングス」という。

社名は「記憶」とギリシャ語の「AXIA」（価値）を掛け合わせて「記録で世界を面白くする」謳い、そのブランド目標が、データが全ての価値の基本となるデジタル社会の進展とかみ合った。

その証左が驚くべき爆発的な売上高であり、27年3月期の売上高の市場予想は8円を超え、上場来わずか2年半で時価総額が日本一のトヨタ自動車を上回った。世界的な人工知能（AI）投資を背景にした業績の急拡大が投資マネーを惹きつけ



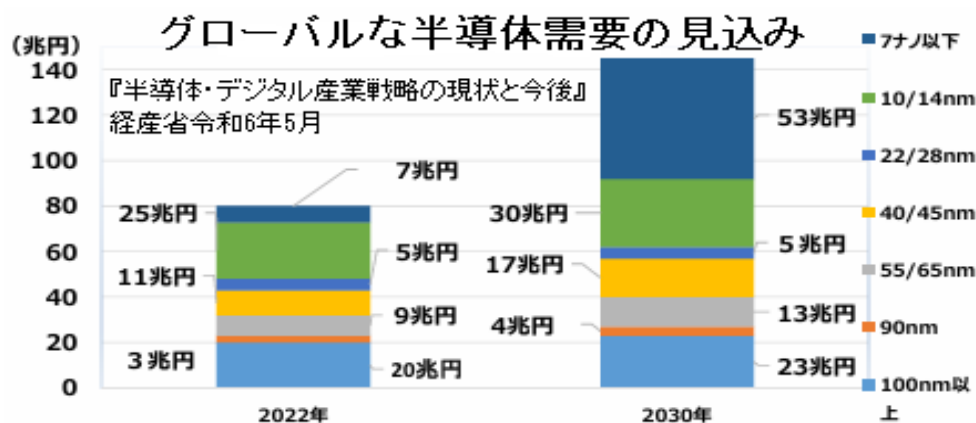
て止まないキオクシア株は6月12日、米イラン戦闘終結への合意近いとトランプ大統領が示唆して前日比10%高の8万3140円まで上昇し、初めて時価総額が45兆円台に乗せた。

むろん、株価の大幅上昇を支えるのが「稼ぐ力」であり、米テック大手のAIデータセンター投資を背景に「NAND型」フラッシュメモリの販売が急増している。QUICKコンセンサス（事前予想）によれば、2027年3月期の連結営業利益は前期比8倍の約7兆円を見込み、実現すればトヨタの3兆円計画を大幅に上回る。ほどなくSMBC日興証券は6月10日付レポートで、「過去に例のない好況継続が予想される」とキオクシアの目標株価を従来の4.8万円から12.6万円へと引き上げた。

言うまでもなく、世界の半導体生産の中心は米エヌビディアが開発したAI素子GPU（画像処理装置）だが、GPUの周りには特殊なメモリ素子「HBM（広帯域メモリ）」が必要であり、それを開発した韓国のSKハイニックスが一躍世界の最前線に躍り出た。後れを取ったサムスン電子は25年後半から猛然と巻き返し、26年1-3月期の半導体営業利益を前年同期比9倍へと急回復させた。

このハイニックスとサムスンの両社の激突の間隙を突いて「漁夫の利」を得るように独自の技術優位を獲得したのがキオクシアだ。キオクシアが専業とするNAND型フラッシュメモリはデータの長期記憶を担う。当初はAIの波に乗れず株価も低迷していたが、そうした状況を逆転させたのが第8世代から投入した「CBA」という特殊技術である。

「ロジックとメモリの2枚のウエハーを貼り合わせ、保存された膨大なデータから最適なデータを超高速で取り出すことができる。AI機能の要である『推論』に役立つと高く評価され、世界中から引き合いが殺到した」（同政府関係筋）。NAND型フラッシュメモリの世界シェア1位はサムスンだが、「HBM」開発に手を取られている間にNAND専業のキオクシアが工場をフル稼働させ、「CBA」を進化させ、チップを1000層以上に積層出来る超高密度のメモリの開発に成功、技術力の差を一気に広げようとしている。むろん、他社を数倍上回る高密度化ができれば、サムスン超えも近いとされる。一方、AIの進化の方向として世界が見据えるのがフィジカルAIであり、自動車やロボットなどAIで制御し、現実世界を一変させる可能性を秘める。そこで「視覚」を支配しようとしているのがソニーグループである。ソニーは人間の目と同じ機能を持つ「CMOSイメージセンサ」で世界シェア1位と圧倒的な存在感を示している。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。